



ココロとココロ

～届け 私たちの思い～  
NPO法人アクセス  
-共生社会をめざす  
地球市民の会

# 教育支援で、貧困からの脱出を

フィリピンのルソン島沖に浮かぶ小さな島アラバット。今この島の村では、16人の小学生とその保護者が中心となったあるプログラムが進められている。彼ら自身が地域の将来を考え、貧困から抜け出す力をつけようという活動だ。その取り組みをNPO法人「アクセス-共生社会をめざす地球市民の会」が支援している。



アラバット島

フィリピン

NPO法人アクセス-共生社会をめざす地球市民の会  
〒612-0029 京都市伏見区深草西浦町4-78  
村井第一ビル2F 7号室  
TEL/FAX: 075-643-7232  
Email: acce@sannet.ne.jp  
URL: http://www.page.sannet.ne.jp/acce/

## 貧しさが貧しさを呼んでいる

雨の日の朝、アラバット島のピリヤマンサノ・スール村では、ほほえましい光景が見られる。バナナの葉を傘代わりにして歩く小学生の通学風景。しかし村には、その列に加われない子どもが大勢いる。貧しくて学校に通えないのだ。村には漁具も満足に持てない零細な漁民が多い。収入は不安定で、しかも少ない。電気代が払えず光のない生活を送っている家もあれば、米を買えず飢えに苦しむ人々もいる。小学校は義務教育で授業料は不要だが、制服代や文具代、昼食費、PTA費などはかかる。生活するのがやっとの親にとって、子どもの教育費にまではとても手が回らないのが現実なのだ。しかも、貧しい家庭の「貧しさ」は改善されてきた気配がない。

1999年からこの村で活動する「ア

育分野の支援もその一つだ。しかし、どのような事業を実施しようと「何よりも大切なのは住民たち自身の意識改革」と森脇さんは強調する。貧困から抜け出すための力を住民自身にすることが欠かせないというわけだ。その意識改革に直結する取り組みが、JICA基金を活用して新たにスタートした奨学生プログラムだ。

## 奨学生プログラムで住民たちの意識改革

新たな奨学生プログラムは、小学生とその保護者たちのエンパワメントに向けたさまざまな活動を支援し、健全な家庭生活と子どもに優しいコミュニティづくりを目指すもの。16人の奨学生は、児童・保護者共に就学の意欲が強いこと、家庭の収入が少ないこと、他の奨学生プ



奨学生に選ばれた子どもたちの保護者



青年会による補習授業を受ける奨学生

ログラムを受給していないことの3つの基準をもとに選ばれた。

奨学生は、自分たちが今困っていること、嫌なことなどをお互いに発表し、話し合うワークショップに参加。抱えている問題や子どもの権利、村の貧困、夢などについて、子どもたち自身が考える場だ。また、歌や踊りの文化活動も開催される。13〜30歳の村人で構成される青年会の協力で、補習授業も行われている。さらには保護者も、ワークショップで子どもの人権や家族の役割などを考え、話し合う。母親

たちが毎日昼食をつくり、学校に届ける活動も始めている。

そして、マニラへの研修旅行も行われた。旅行中、都市スラムの子どもたちとも交流し、自分の村と何が違い、どのような共通点があるのか、奨学生や保護者たちは自分の目で見、考えることができた。アクセスの現地法人で奨学生プログラムを担当しているクリスチャン・ロヨラさんは、「活動の目的は、奨学生や保護者の相互協力とリーダーシップの育成です。それが、健康な生活と子どもに優しいコミュニティをつくることにつながり、貧困から抜け出すための第一歩になると考えています」。

森脇さんには、20年にもわたるフィリピンでの活動の中で、心に残り、忘れられない言葉がある。アクセスが支援する女性からの声だ。

「毎日の生活は絶望的です。くじけそうになります。でも自分たちの生活を少しでも良くしようと支援してくれる人たちがいます。そんな人たちがいるのに、自分たちがくじけていてどうする。頑張らねば。そういう気持ちになれるのです」  
森脇さんやロヨラさんにとって、何よ

クセス-共生社会をめざす地球市民の会」の森脇祐一事務局長は言う。「貧しい。だから教育を受けられない。教育を受けていないから職が得られない。その結果、貧しさから抜け出せない。こういう悪循環が世代を超えて続いているのです」  
アクセスは、フィリピン国内の4カ所で事業を行っている。巨大ゴミ捨て場として有名なスモークマウンテンでの支援や都市スラムでの生計支援などだ。「スラムで暮らす人々は、農村や漁村での貧しい生活に疲れきって都市に移住してきた人たちです。フィリピンの貧困問題を解決するためには、村での生活をまず改善していくことがどうしても必要なのです」。

そしてアクセスは2009年、ピリヤマンサノ・スール村を重点地域とし、フェアトレード、養豚・家庭菜園、マイクロファイナンスなどさまざまな活動を開始。教育のやりがい、は現地のひとこうした、つながりを実感できること。  
アクセスの正式名称は共生社会をめざす地球市民の会。国境や国籍、言葉や文化の違いにとらわれることなく、同じ地球に暮らす市民として、分け隔てなく付き合い、共によりよい関係をつくっていきましょうというのが会の理念だ。奨学生プログラムを支えるのは、この地球市民。教育支援の枠を超えるのは、この地球市民。教育支援の枠を超え、貧困削減を目指す活動は、やがてさらに多くの地球市民を生みながら、隣接する村々へと広がっていくだろう。



ピリヤマンサノ・スール村は、港のある町の中心部から離れ、零細漁民の割合が多い

## あなたの小さな一歩から始まる国際協力 世界の人びとのためのJICA基金

JICAでは、国際協力に関心のある日本の皆さまからの寄付を、開発途上国の貧困削減や環境保全への取り組みに活用する「世界の人びとのためのJICA基金」で受け付けています。皆さまのご支援をお待ちしております。

### 寄付金の使われ方

お寄せいただいた寄付金は、途上国の貧困削減、医療や教育の提供、環境問題の解決などに取り組むNGOの活動に充てられます。各支援活動や寄付金事業収支についてのご報告は、「JICA寄付サイト」で公表します。

### 寄付の方法

「JICA寄付サイト」からお申し込み下さい。クレジットカードによる決済や、銀行・郵便振込みなどがお使いただけます。  
JICA寄付サイトURL: <http://www.kifu.jica.go.jp/>